

明日にむかって

発行/社会福祉法人 陽光会 陽光保育園 編集/陽光保育園「明日にむかって」編集委員会
発行日/2005年8月27日 住所/東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03(3956)1068

48号

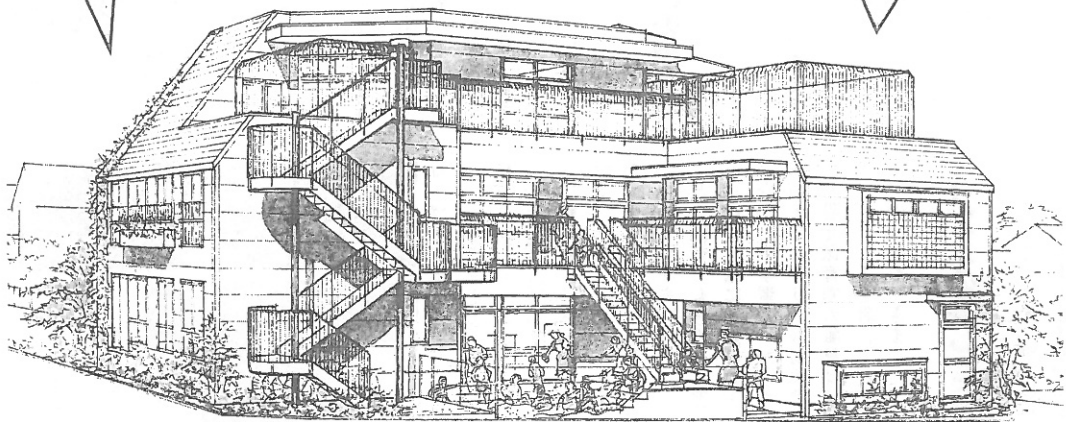
今年には戦後60年。8月6日広島に原爆が落とされた日の夜、その広島で作曲家林光と東京混声合唱団による「八月のまつり」という催しがあり、合唱曲「原爆小景」を聴きました。「水ヲ下サイ……」と始まった瞬間、背筋が寒くなりました。60年前の状況を合唱にした作品です。すさまじい迫力のある歌声にただただ聴き入るばかりでした。そしてあの戦争のあとに生まれた憲法九条で、戦争を放棄することと軍隊を持たないことを約束したのに、今その憲法九条を改正し、戦争をする国にしようとしています。同じ過ちを繰り返そうとするのは、60年前の戦争の反省がないからではないでしょうか？ ポードピリアンの故マルセ太郎氏が、当保育園に残してくれた色紙に「記憶は弱者に在り」とあることを思い出します。/今回の衆議院解散での総選挙は、郵政民営化が争点と言っていますが、真実の争点は『平和・くらし』です。しっかり審判を下しましょう！ (T・R)

大切にしたいこと

- 子どもが主人公の保育園
- 安全で安心できる保育園
- 地域とともにある保育園

新規事業

- 13時間保育……2時間の延長保育を実施します
- 一時保育……園児以外の乳幼児を一時的に保育します
- 乳児定員増……1歳児を5名、2歳児を4名増員します



みんなの力で新園舎実現へ！

10月着工、

来年6月末完成予定！！

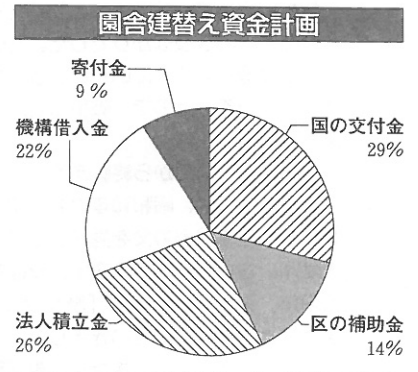
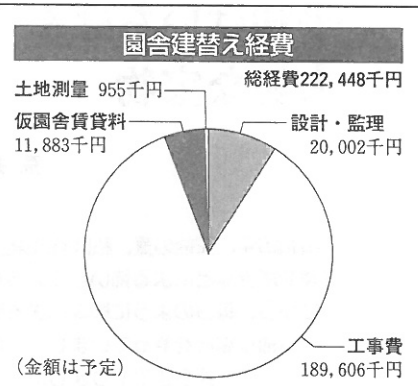
陽光保育園は、戦後水道タンクの下で誕生してから、今年の夏で56周年になります。1967（昭和42）年に東京都の補助を受けて全面改築し、78（昭和53）年には補助を受けられなかったことから、園債を発行しながらみんなの力で産休明け保育実現のために増築をし、現在に至っています。

しかし、阪神大震災以後改められた建築基準では今の園舎は耐震・耐火基準に適合しないとされたことから、安全な建物での保育をめざし、当社社会福祉法人・陽光会は、昨年2月の理事会にて正式に園舎建替への申請を行うことを決め、建設委員会を発足させて準備を進めてきました。昨年12月には「正式な回答は2月頃になるが、陽光保育園は今回は無理かもしれません」と、区の担当者から連絡があり、一同がっかりしたもの、今年度補助金が受けられない場合は次年度またチャレンジすることを決めました。

ところが今年度、施設整備の制度が大転換しました。3月に入ってから、「陽光会が再度申請するならば、板橋区の計画として出しますよ」と区の担当者からの吉報。新制度の要綱もできていないなか、財源の問題等不安定要素を抱えながらも、とにかく建替えは急がれるため、申請することを決めまし

た。大急ぎで設計のほうも進めていたところ、6月30日、待ちわびていた区の担当者からの電話がありました。「国からの内示が出て、交付金予定額が出されました。しかし問題があり、予定交付額が申請額の半分になっていて、しかも『参考：17年度進捗率50%』と書いてあるのです」。この内容に、嬉しさがこみあげるのと同時に、残りの50%が来年出るのかという不安も抱えることになりました。それでも、理事会では園舎建替えに踏み切ることを確認しました。

このような事情から、工事は今年度と来年度をまたいで行われることになりました。7月28日には、板橋区から補助見込の通知があり、契約し仮園舎工事（9月）↓引越し↓本園工事（10月）↓引越しの日程が決まりました。無事に新園舎が建設されるまでにはまだまだ難問、難関が待ち受けているかもしれません。けれども、今までの56年の歴史の中でも、陽光を支えてくださる大勢のみなさんの力で難関を乗り越えて



新園舎概要

- 建設地 現在地
- 構造 鉄骨造3階建て
- 延面積 462.11㎡(現428.24㎡)

●定員

定員	新	現在
0歳児	6名	6名
1歳児	15	10
2歳児	16	12
3歳児	16	15
4歳児	16	18
5歳児	16	18
計	85名	79名

仮園舎（建替え期間中の代替施設）

住所 大谷口北町52-2
(旧・東京都下水道局板橋南出張所)

敷地面積 981.80㎡

建築面積 308.30㎡

利用期間 10月下旬～来年6月下旬の予定



◎寄付のご協力ありがとうございます。

◆ひまわり基金—2002年1月～05年7月
【個人】西村真由美・高久マサミ・古橋秀信・津田良助・吉永和男・星野紀・白土初枝・渡辺君子・山田保子・宮沢光子
【団体】陽光保育園後援会企画事業部・同有志・歌とリズムの会・バザー実行委員会・財政委員会（職員）共同購入

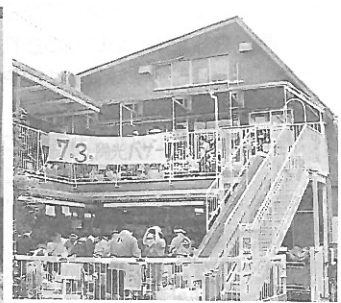
◆建設委員会寄付

【個人】中島千鶴子・小川恵美子・清水章子・上野聡子・片山高司・高久マサミ・星野紀・原芳子・上野悦子・古橋秀信・海波シズ子・松本信子・堀之内祐次・館山治彦・松本サチエ・西村治美・大塚博美・川内八重子・貫井貴之・貫井智功・穆佐望・小堺百子・田中たみ代・内海幸雄・島田照雄、はるえ・石巻文雄・仲野研・渡辺一之・真田和代・徳留人美・牧野澄夫・田辺弘子・筒井和美
【団体】財政委員会共同購入・リズム講座・陽光保育園後援会・バザー実行委員会（いずれも敬称略・順不同）

このような事情から、工事は今年度と来年度をまたいで行われることになりました。7月28日には、板橋区から補助見込の通知があり、契約し仮園舎工事（9月）↓引越し↓本園工事（10月）↓引越しの日程が決まりました。無事に新園舎が建設されるまでにはまだまだ難問、難関が待ち受けているかもしれません。けれども、今までの56年の歴史の中でも、陽光を支えてくださる大勢のみなさんの力で難関を乗り越えて

（注）保育所整備の制度が大きく変わる！2005（平成17）年度から、三位一体の改革により国の補助金のしくみが大きく変わりました。間接補助から国の交付金となり、施設整備補助の主体が東京都から区市町村に変わりました。具体的には、区市町村の「次世代育成支援行動計画」に添う内容になっているかどうか重要になり、法人審査・現地調査も区市町村が行うことになりました。これまでの東京都の指導に従っての整備から、区市町村の指導によるものになったのです。このことは財源にも影響し、国の交付金と区市町村の補助で整備がなくなったため、法人の自己資金を増やさなければならなくなったのです。

（陽光保育園園長 高田礼子）



7月3日、「夏のバザー」を開催。今の園舎での最後のバザーとなり、大にぎわいのうちに無事終了。売上げも目標額に近いものとなりました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。「冬のバザー」（12月4日）は、仮園舎で行います。

現園舎での最後のバザー

大人のための
基礎から学ぶリズム連続講座

リズムの楽しさを
みんなまで学びました

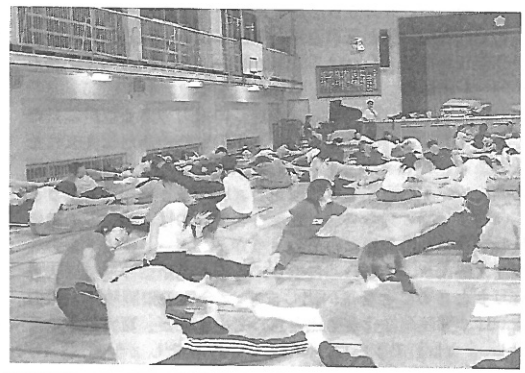


園舎建替えの財政活動の一環として陽光保育園建設委員会が開催した「大人のための基礎から学ぶリズム連続講座」(全3回)は、たくさんの参加者を得て、大盛況のうちに終了しました。参加された皆様、ありがとうございました。今回はそのご報告をします。

予想以上の大反響

「リズム」は陽光保育園の保育の中で日常的に取り組んでいるもののひとつです。さまざまな曲にあわせながら、金魚やうさぎ、カエル、カモシカになるなど、イメージをふくらませながら体を動かす、その動作のひとつひとつが神経系や運動機能を高め、子どもたちの表現するよろこびを引き出します。

その「リズム」をもっと多くの人(とくに保育者)に知ってもらいたい、という思いから企画されたこの講座、講師は陽光保育園保育士の小内康寛。小内保育士は、「陽光保育園から地域に向けて発信すること」を目的に、以前から各地でリズム講座を開いてきましたが、今回は初めて地元での開催となりました。伴奏のピアノも同じく陽光保育園の保育士、宗形博美が担当したほか、職員全員が参加者のみなさんと「ともに学びあう」という思いを胸に準備・運営に携わりました。



リズムの基礎を理論から実践まで、みんなで学びました。大勢の参加者に、会場は熱気ムンムン。

陽光保育園後援会
2005年度総会 開催



5月28日(日)、陽光保育園ホールにて開催。第一部「ただじゅんのひとりおはやし劇場」の後、第二部総会。子どもたち、父母のための活動の他、園舎建替えを支援することも確認しました。

ひとりおはやし劇場の多田さんは陽光保育園在園児のお父さん。獅子舞などのほか、皿回し(紙皿)も教えてもらって子どもたちも大喜び!

どれほどの参加があるか、当初心配もありませんでしたが、予想を上回る反響があり、全3回の講座に169名もの参加者がありました。板橋区内を中心に、遠くは横浜や埼玉からも申し込みがあり、うれしい悲鳴をあげたほどです。予定数を上回ってしまったため、お断りした方には申し訳ない気持ちでいっぱいです。

多くを学びあった3回の講座

●第1回(4月23日)
「人になるための基礎リズム」
0歳から4歳半までの発達と運動機能に基づいたリズムについて、「なぜリズムを行うのか」という理論的なことからリズムの実際を学びました。寝返りやハイハイを基本とした赤ちゃん時代のリズムから、年齢に応じ、身体と運動機能の発達に応じた基本のリズムを学び、その動き方のポイントを知ることができました。

●第2回(5月21日)
「表現のリズムと年長児のリズム」
年長児(5歳児)は6歳の誕生日を迎える、格段に身体も運動機能も成長し、精神的にも大きく成長します。その6歳の誕生日を迎えた子どもたちの心身の発達と、6歳を迎えてできるようになるスキップ、ギャクなどについて学びました。

●第3回(6月4日)
「集団遊びのリズム」
年齢に応じた集団遊びの実践というテーマで、2〜3人で行うリズムから10人以上で行うリズムまで、幅広く集団遊びのリズムについて学びました。

リズムの楽しさを伝えたい

「リズム」には、確かに正しい形や模範となる形がありますが、子どもたちにそれを求めたり、押し付けたりするのはなく、大切なことは、年齢に応じ、身体・精神の発達を踏まえて、高めていくことです。そういった指導のポイントも学ぶことができた今回の講座は、私にとっては保育の中でのリズムの実践について、改めて考えるきっかけとなりました。

参加者からも、うれしい感想をたくさんいただきました。

「リズムの意義や、身体の発達との関係がよくわかりました。正しい方法もわかりよかったです」

「改めて学び直すことができました。板橋でやっていただいたので、職場から大勢で参加できました」

「きちんとした動きをすると気持ちがよく、身体にとってもよいと実感したので、そのことを子どもたちにも伝えていきたい」

リズムを正しく行くと、とても心地よく感じられるものです。ただ、今回は、普段の生活の中ではあまり使わない筋肉を使う

「リズム」には、確かに正しい形や模範となる形がありますが、子どもたちにそれを求めたり、押し付けたりするのはなく、大切なことは、年齢に応じ、身体・精神の発達を踏まえて、高めていくことです。そういった指導のポイントも学ぶことができた今回の講座は、私にとっては保育の中でのリズムの実践について、改めて考えるきっかけとなりました。

参加者からも、うれしい感想をたくさんいただきました。

「リズムの意義や、身体の発達との関係がよくわかりました。正しい方法もわかりよかったです」

「改めて学び直すことができました。板橋でやっていただいたので、職場から大勢で参加できました」

「きちんとした動きをすると気持ちがよく、身体にとってもよいと実感したので、そのことを子どもたちにも伝えていきたい」

リズムを正しく行くと、とても心地よく感じられるものです。ただ、今回は、普段の生活の中ではあまり使わない筋肉を使う



「お父さん」というより「遊び友達」
僕は子どもと遊ぶのが大好きだ。我を忘れて子どもと一緒に遊びまわることが出来る。我が息子、悠雅にとって僕は、「お父さん」というより「遊び友達」といったほうがいいかもしれない。

休みの日には家の中に入ることばすなく、だいたい公園などで遊ぶ。夜寝る前の定番は、たたかごっこ。悠雅は本気で飛び込んでくるし、もちろん本気パンチ、本気キックもあり。その衝撃で、よく口の中に口内炎ができるほどだ。時間に関係なく、ひたすらたたかごっこが続くので、最近ではタイマーをセットしてたたかごっこが作られた。タイマーが鳴ると、もともとも遊びたい悠雅の「お願いポーズ」——ほっぺに手をやり、とびっきりの笑顔で「もうちょっとだけ、お願い!!」でねだられる。そのかわいらしさにクラッときて、ついつい時間を忘れて遊んでしまう。

最近、悠雅もアニメ「ガンダム」のよさが分かるようになり、一緒に見ることも多くなった。お互いの趣味が一致してきて、ガンダム世代の僕としてはとてもうれしく、息子もここまでできたのかと成長を感じる。子どもにとっては遊びが仕事である。よく遊びこむことが、子どもの成長、発達にとって大切なのではないかなと思っている。だから僕は悠雅が求める限り、「遊び友達」でいてあげるつもりだ。

とはいっても、遊んでもらえるのはあと数年だけで、どんどん親から離れてしまおうと思うと、さみしくも思う今日このごろである。

(3歳児クラス・悠雅の父 高山 俊樹)

平和はいちばん大切な宝物



荒井 輝

昭和20年、12歳の夏、私は新潟県三条市の農家で敗戦を迎えました。空襲や爆弾などによる怖い目にはあわなかったものの、戦時中は子どもながら、毎日のように戦場へ送る馬草刈りや薬草刈り、食糧にするイナゴ捕りなどをやっていました。最後は、飛行機の燃料にするための「松根油」採りまでやりました。

学校に行っても勉強はまったくせず、空襲にそなえてのバケツリレーや竹やりの訓練ばかりでした。そのうえ、毎日のように帰ってくる戦死者の遺骨を迎えにいくという、悲しい日々。生まれたときから戦争がつづいていたので、戦争は当たり前で何の疑問ももたない軍国少女でした。

私が物心ついてから終戦までに、父は3回召集されました。最後に召集されたのは、昭和19年の2月22日。大雪の日でした。真っ白に雪をかぶった軍服姿の父を見送った悲しさは、今でも忘れることができません。さらにその日の夜中、母は弟を出産したのです。父は出征する前に、男の子だったら「勝」、女の子だったら「静」と名を付けるようにと黒板に書いていきました。

幸い父も無事帰ってきたし、弟「勝」も元気に育ちましたが、私は自分が大人になって結婚してから、そのとき父母がどんなに悲しく苦しい思いをしたかを思い知らされました。我が子の寝顔を見ながら思った「絶対にこの子は戦争にはやらない!」という気持ちが、今の私につながっていると思います。

あれから60年、なんとか自分の子どもは戦争に行かせずにすんだけど、今またキナ臭いにおいが立ちこめています。靖国神社、君が代、日の丸……、私たちがかつて歩いた道をまた歩きはじめています。日本は憲法9条があったからこそ、60年間、戦争で子どもを殺すことなくきたのです。その憲法を変えようとする人たちは国賊です。再び子どもを戦争に巻き込むことのないように、今、大人たちがしっかりと政治を見張らなければなりません。「どうして戦争を止めなかったの?」と子どもたちに言われぬように。平和こそ一番大切な宝物です。

(板橋区在住/陽光保育園監事)